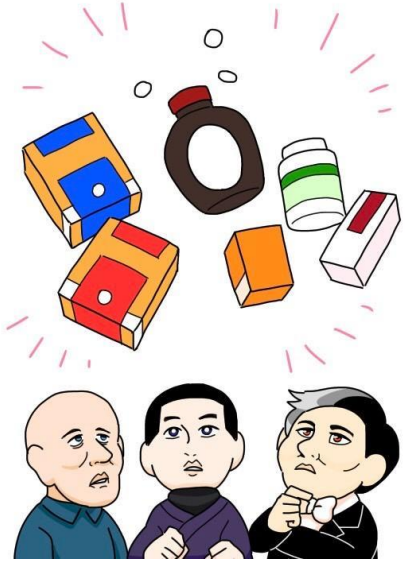
製薬会社の創業者　篇１

創業者の思い

６回にわたって、宇陀ゆかりの製薬会社の創業者として、津村重舎、山田安民、藤澤友吉をご紹介しました。次にご紹介する創業者や会社名、薬名はご存じですか。

明治 36 年（１９０３）、榛原出身の笹岡省三は、内務省から「命の母」の発売を許可され、明治 38（１９０５）に「命の母本舗笹岡省三薬房」（現　笹岡薬品㈱）を設立しました。「命の母」は、省三が母性に対する思いやりから創案し、以来、女性の健康を支え続けた歴史のある薬です。創業から今日に至るまで女性保健薬として製造され、現在も「命の母」シリーズが販売されています。

榛原出身の谷口作治郎は、アイフ製薬㈱を創業し、下痢止め・整腸薬の「アイフ」を販売しました。作治郎は、榛原第一尋常小学校（現　榛原小学校）の講堂建設資金を提供し、昭和 14 年（１９３９）に完成しています。講堂はその後、谷口会館と名前を変え、長く地域の人々によって活用されました。

室生出身の上田太郎は、昭和４年（１９２９）に「上田くろやき店」を創業し、昭和 27 年（１９５２）、大阪の道修町（どしょうまち）に「㈱くろやきや小太郎」を設立しました。その５年後に社名を「小太郎漢方製薬㈱」に変更しました。社名の「小太郎」は、太郎の出身地近くにある景勝地・香落渓（こおちだに）にある小太郎岩に由来しています。この岩の真っ直ぐそびえ、天にも届く勢いに「社業もこれにあやかりたい」との思いからの社名に使うこととしました。「小太郎漢方製薬㈱」は、漢方薬の製造を中心に行い、業界に先駆けて漢方エキス剤の製造販売を開始しました。飲みにくいと言われた漢方薬をエキス化することによって、大衆に普及させ、今も多くの漢方薬が販売されています。